

題目 未来志向性と環境政策支持・環境配慮行動の関連 - 第2次札幌市環境基本計画策定過程における調査 -

氏名 濱田 みのり

指導教員 大沼 進

近年、環境問題や原子力発電に伴って発生する放射性廃棄物の処理施設立地問題など、過去において後回しにされてきた問題が巡り巡って大きな問題として現代に現れる、という「後回し問題」が数多く見られる。これらを解決する糸口をつかむためには、なぜ人々が未来志向的になれないのか、どうすれば未来志向的になれるのかを考える必要がある。そこで、本研究では未来志向性を測る尺度として、未来志向性（未来重視）と現在志向性（現在重視）で構成される「Consideration of Future Consequence (CFC)」を利用し、札幌市第2次環境基本計画の策定過程を題材に、CFCが環境配慮行動や集合行動、未来志向的な政策の支持・受容と関連があるのかを探り、CFCが果たす役割の重要性を考える。また計画策定過程では、あるべき未来像を起点として現在からの道筋を考えるバックキャストシナリオを用いた市民参加ワークショップを行った。無作為に抽出された札幌市民（一般回答者）と、計画の策定過程でおこなわれた市民参加ワークショップの参加者（WS参加者）を対象にした郵送による質問紙調査をおこない、ワークショップの有用性についても検討した。その結果、全体的にWS参加者のほうが環境配慮行動や集合行動をおこない、計画を支持する傾向があることが示された。さらに、未来重視というCFCの一要因が家庭内3Rといった環境配慮行動や地域の活動への参加、政策の支持に影響することが示された。一方、未来重視とWS参加有無の間に交互作用はみられなかったため、CFCとWSが独立して、社会的な行動や政策の支持に影響を与えていることが示された。次に、CFCと政策受容の関連を調べるため、手続き的公正と内容評価が政策受容に影響を及ぼすというモデルを参考に共分散構造分析をおこなった。その結果、未来重視が、政策の内容評価と策定過程の手続きの評価を総合して評価する「未来づくりの成功」に影響を与えていることが示された。このことから、CFCは札幌市第2次環境基本計画のような未来志向的な政策において、計画の内容とその策定過程の両方が未来志向的であったかを評価するうえで影響すると考えられる。以上の結果をまとめると、CFCが社会的な行動全般や未来志向的な政策の受容に影響していることから、「後回し問題」の解決においても重要な要因となる可能性を示すことができた。またWSの参加が計画の受容に影響していたことから、計画の受容を高めるうえでのWSの効果が示唆された。